

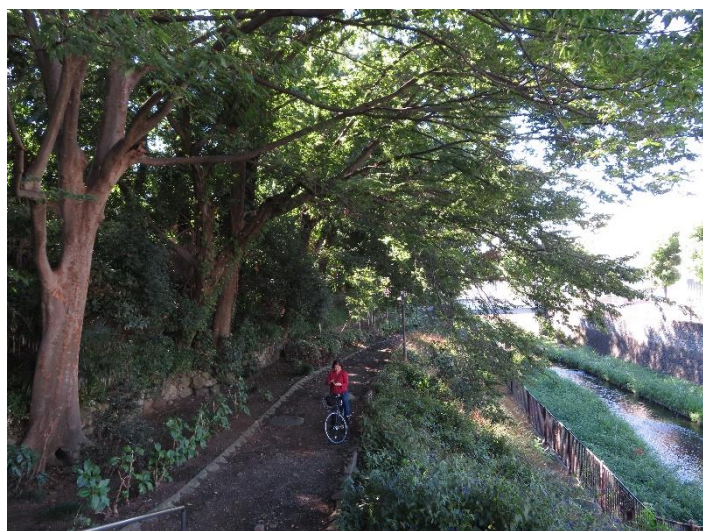


表紙写真：甲州街道の仙川橋から仙川遊歩道を眺める

表紙・口絵写真：林莊祐

「心和む 仙川 入間川 野川」 写真・文 林 莊祐

2019年10月10日発行「せんがわ21」第25号掲載





せんかわ



↖ ① ↑ ④
← ② → ③



写真：林 莊祐
番号は撮影場所
→ 17 ページ参照

12

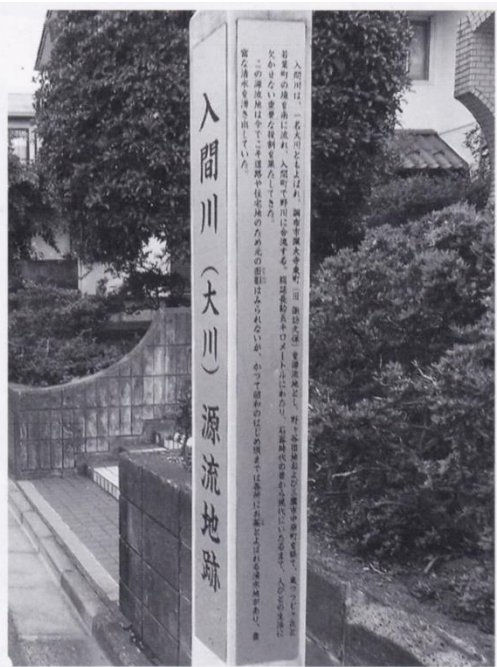


11

15

14





いりまがわ

↑8↓6

↑5↓7



13

9

10



の7



心和む仙川入間川野川

写真・文 林 莊祐（旅記者）
はやし しょうすけ

3つの大きな川がこの地を流れる。いずれも災害や水利用などに重要な国指定の一級河川で、仙川、野川と、その間にやや小ぶりの入間川が川のように並び、閑静な住宅地を巡り市民に潤いを注ぐ。

東側の仙川は京王線仙川駅せんがわから東へ450mの鉄橋の下をゆつたりと流れ、兩岸をコンクリートで固めた深い堀に水草が茂る。下流は世田谷区の祖師谷公園へ、上流は甲州街道をくぐり白百合女子大学キャンパスの西側を北上し三鷹市へ向かう。源泉を求めJR中央線・武蔵小金井駅の先まで遡ると水量が非常に少ない堀が続く梅雨時でもほとんど水涸れ状態だ。水路をたどって新小金井街道に突き当たり、そこに仙川の始まりを示す「せんかわ上流端」の看板が立つ。

仙川はこの水無川「上流端」から最下流で野川に合流するまで20・9キロ。池袋付近の千川せんがわと紛らわしく駅名など「せんがわ」で定着しているが、川呼び名は「せんかわ」だ。看板の真下に排水口の円い大きな穴が暗渠あんきょのように見える。その先は、手元にある1975（昭和50）年和楽路わらじや屋発の地図だと小平市上水南町の児童養護施設、東京サレジオ学園まで水路が延びる。学園紹介に「仙川の源流がわきでる小平の地」とあり園内の池に湧き水があったらしい。

小田急線成城学園前駅近くの打越橋脇に立つ東京都の説明板によると、上流の三鷹市新川の水神を祭る勝淵神社かつぶち辺りは湧き水が豊富で千釜せんかまと呼ばれ、なまて仙川と言う。仙人が住んでいて仙川になったとする説などもある。九十年

前、28（昭和3）年発行の便覧社「東京郊外地図」、30年の雄文館「大東京市郊外地図」とも千釜の位置に大きな池があり、ここに流れ込む川は無い。昔はここが源泉だったようだ。いまの仙川はさらに北から流れ来るが、蛇行でなく何度も直角に曲がっていて人工の用水路で繋いだ経緯が見える。今回それぞれの川を改めて歩き取材し、神田古書店街で古い地図など手に入れ左のページ「3河川図」にまとめた。

入間川は仙川駅の西隣つつじヶ丘駅から350m東寄りを流れる。甲州街道に突き当たる調布、三鷹両市の境界地点に架かる入間橋を起点として「いりまがわ上流端」の看板が立つ。この呼び名も以前は「いるまがわ」だった。ここから三鷹市に入ると中仙川なかせんがわと名前を変え暗渠の上を整備された憩いの

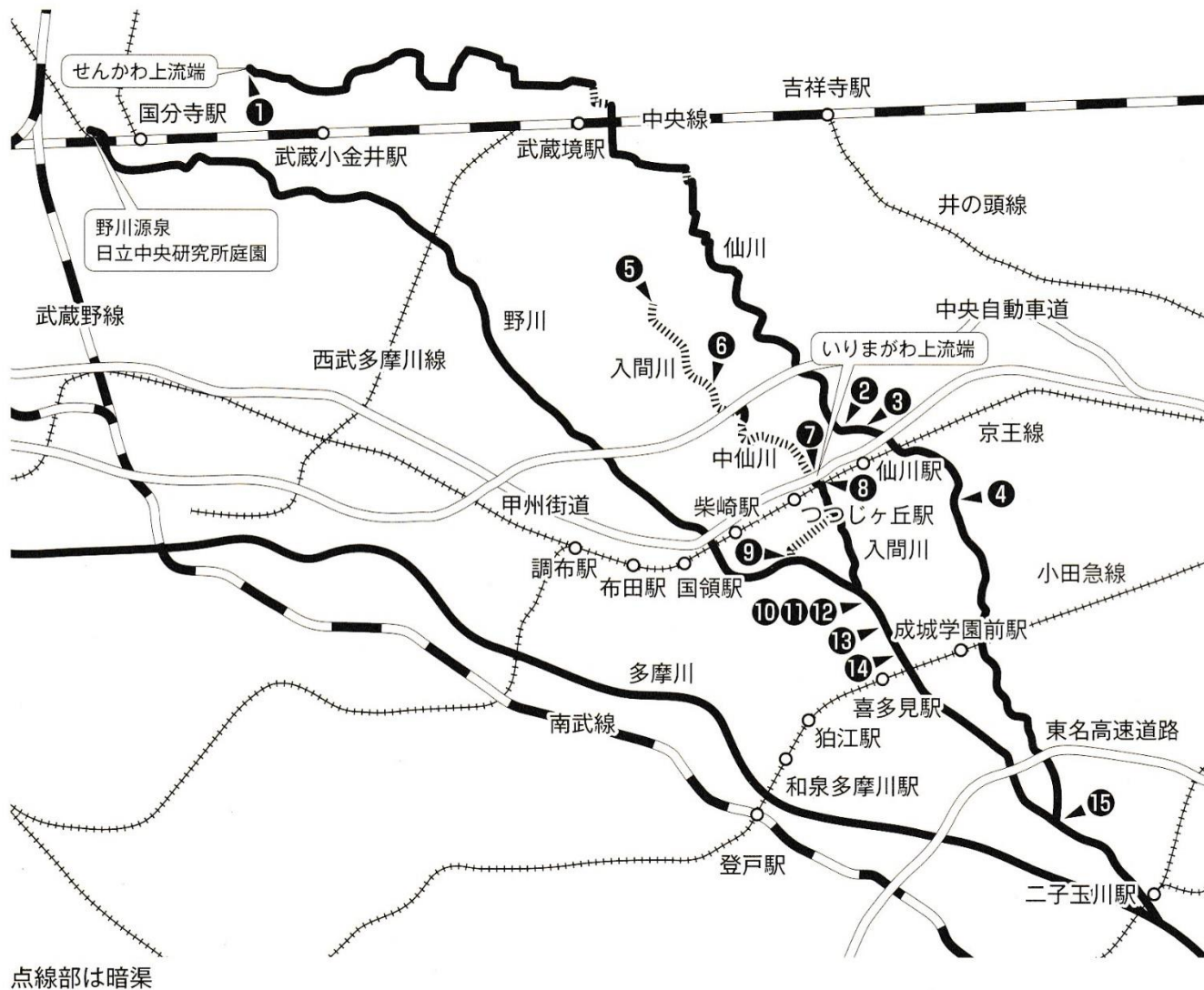
遊歩道が続く。中央自動車道の手前で一部水路が現れ、地図にも水色の線が引かれている。中仙川は仙川駅付近が下仙川だった地名に並ぶ名残で仙川の流れと繋がりは無い。

さらに北へ廻り行政が再び調布市になると名前は入間川に戻る。ややこしい命名だが、航研前（現JAXA）バス停近く、同市深大寺東町8丁目の野ヶ谷のがや通りに「入間川源流地跡」の標識が立ち、60年代の「調布市全図」（調布市役所刊）も川の流れをはっきり示す。75年の地図は再び三鷹市に流れが延びて、気象庁現ホームページの防災情報・洪水マップだと入間川はさらに上流の小金井市へ続く。入間川は上流端の標識から狛江市東野川の狛江ハイタウン前で野川に合流するまで1・75キロが都河川局の公式距離だが、野川との合流点はどう一つある。大雨で入間川の水が溢れると京王線下流の西野橋付近に6年前設置した分水路に流れ込み長さ1230mの地下バイパスを通り西つつじヶ丘の調和小学校前の小金井橋下で野川に吐き出される。

3つの河川の西側、最も川幅が広く大きい野川は河川敷に遊歩道が長く続き、水辺に近寄りながらウォーキングを楽しむ姿が数多く見られる。台風などで水かさが増すと、この散歩道は水没するが、この9月に関東を直撃した15号の風雨でも野川の水は溢れなかった。ふだんはカワセミ、カルガモ、サギやカメ、コイなどによく出会う心む環境だ。野川の源泉が国分寺市の日立中央研究所庭園なのはよく知られており、延長20・23キロで東急田園都市線の二子玉川鉄橋の真下で多摩川に合流する。

武蔵野台地の斜面（崖）が連なる国分寺崖線に沿って環境に恵まれた野川が、このところ沿川の住宅開発などで環境保全が心配される。水と戯れる鳥たちの姿が減った、との声も聞く。昆虫も夕方のコウモリも少なくなったという。治水の河川改修が続き、外環（東京外かく環状道路）の大規模工事による地下水や緑の森の変化も未知数だ。

（狛江市東野川三丁目）



点線部は暗渠

- ①小平市せんかわ上流端
- ②女子大生通学の弁天橋
- ③弁天橋近くのカルガモ
- ④仙川沿い遊歩道で寛ぐ
- ⑤入間川源流跡は調布市
- ⑥暗渠上の遊歩道で散歩
- ⑦甲州街道の中仙川起点
- ⑧いりまがわ上流端標識

- ⑨地下入間川が野川合流
- ⑩清流を楽しむカワセミ
- ⑪純白がまぶしいコサギ
- ⑫野川でカメの甲羅干し
- ⑬満開の桜のもとで花見
- ⑭谷戸橋下流の野川風情
- ⑮仙川は鎌田橋で野川に



●編集制作スタッフ●

表紙・口絵写真：林莊祐

表紙タイトル（創刊号より）：山岡義典

グラビア写真：山口道朗

データ入力・編集デザイン・制作：山下琢

題字・カット：こやまきょうへい 山下琢

地図制作：小森葵・横山圭（仙川地図研究所）

広告営業：佐美佑

印刷／製本：竹中求

配布：子吉信成、桑原昇、竹中求

HP：大菊健太

●編集協力●

林真理（狛江市東野川）、沼崎栄一（桐朋学園）、
川口信子（仙川町2）、平野秀治（相模原市上鶴間本町）、
山口千穂（虎ノ門法律経済事務所）、
和田夏実・栗田莉七（モッテ）

白百合女子大学事務局長室、調布市総務課公文書管理
係、調布市立中央図書館調査支援係、同緑ヶ丘分館、
同若葉分館



▼今回も多くの「せんがわびと」に出会い、ご縁をいただいた。とにかく「働きがい」と「生きがい」が連動した人生を過ごせれば幸いである。「心の時代」に、ことばを大切にしたい。本誌はいささかアナログ派であるが、年2回は刊行し、日常的にはHPのリンク集を充実させ、仙川情報のプラットフォームにしたい。HPの運営に強い人財の参画を！（青野友太郎）

せんがわ21 第25号

仙川の寺院・神社・教会

心和む 仙川 入間川 野川

自然エネルギー「えねこや」づくり

発行日・2019年10月10日

頒価・カンパ誌代 300円

発行部数・4000部

編集長・佐美佑

編集発行人・青野友太郎

編集及発行所・

せんがわまちニティ情報センター

東京都調布市仙川町1・16・18

杉田第一ビル3階

〒182-0002

T&F 03・3326・2707

sengawa21aono@com.home.ne.jp

<http://www.sengawa21.net/>

印刷・製本 カロン企画